

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット コスモス)

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2794400057 | | |
| 法人名 | ヒューマンライフケア | | |
| 事業所名 | ヒューマンライフケア城東の湯グループホーム | | |
| 所在地 | 大阪市城東区東中浜4-2-7 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年2月17日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年4月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 |
| 訪問調査日 | 令和3年3月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の自由を尊重するためにタイムスケジュールを作らず、入居者様の望むライフスタイルを支援しています。入居者様が楽しんで生活できるように、日ごろからスタッフと一緒に散歩に行きます。大阪市では珍しい平屋の施設でテラスがあります。テラスでのお茶会やバーベキュー等のレクリエーションを実施しています。社内研修や、拠点内でのミーティングを実施し、より良いケアを提供できるようにしています。また、地域交流も兼ねて、ふれあい喫茶を開催する等地域に根付いた施設運営を目指します。今年度に関しましては、コロナ禍ということもあり、バーベキューやふれあい喫茶は開催できませんでした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ヒューマンライフケア(法人)は、人材・教育・介護など幅広く事業展開するヒューマングループの介護部門で、「城東の湯」(事業所)は、全国15ヶ所のグループホームの一つである。法人には「～の湯」というユニークな名前が多い。最初の拠点が町の銭湯から始まったことに由来するという。開設11年目の事業所は、住宅街にあり、平屋で中庭テラスのある開放感あふれる建物で、2ユニットである(デイサービスが棟続きに併設)。若い職員は、管理者を含め男性が5名と多く、このことが職員相互のコミュニケーションが良好で、働き甲斐のある職場となっている一因かと思われる。有資格の職員が多いが、さらに法人の「認知症KAIGOマイスター」研修に挑戦することで、利用者のより良い介護に努めている。ケーキ作りが得意な職員もいて、各イベントでは利用者に好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・安心と満足の提供・信頼の確立・生き生きとした生活・地域社会と共にといい私たちが大切にしている事を理念としている。事務所、玄関、各ユニットに掲示している。 | 事業所の理念は、利用者、職員や家族等が目にする玄関、事務所、相談室や各ユニットに掲示されており、それぞれの関係者に周知を図っている。法人の理念や毎月のスローガンも職員の目につくところに掲示し、介護の実践に役立たせている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | コロナ禍ということもあり、外出は制限しておりました。散歩や通院等でしか外出できなかった。 | コロナ禍以前は、町会長の尽力があり、数多くの地域との交流が行われてきた。ふれあい喫茶、防災訓練、落語会、花見や餅つきなど地域の多くの人々と利用者の参加が見られたが、現在はコロナ禍のため一時中断している。なお、現在でも天気の良い日には利用者の散歩を継続中である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍ということもあり、玄関先での面会や施設見学、居宅支援事業所へのDMを行った。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での意見を取り入れ、業務の改善、向上につながる様取り組んでいる。写真で行事の報告をし、次月からの予定、ひやりはっとを報告している。コロナ禍ということもあり、書面での意見交換となった。 | 従来は、偶数月の第3金曜日夕方に開催していたが、昨年4月以降、6月を除いては、コロナ禍のためやむなく書面開催に変更している。主たる参加者は、地域包括、町会長、管理者である。会議では、活動状況、ヒヤリハット、入退去や行事関係(写真提示)を報告し、参加者から事業所に対する意見や要望を得て、事業所のサービス向上に反映している。 | コロナ禍が収束した際には、地域の民生委員、医療連携の調剤薬局や同業のグループホーム管理者などが会議への外部参加者を増やすことを望む。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括支援センターの職員、町会長、ご家族様に運営推進会議に参加して頂き、情報提供をして頂いている。 | 区保健福祉センターの窓口とは、必要に応じ報連相(報告・連絡・相談)を行っているほか、地域包括支援センターとは運営推進会議等を通して、意見、提言や情報の提供を受けている。生活保護受給利用者の諸手続きについては、主として家族等が行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束について3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会議を行って。玄関の開錠に関しては家族様からの反対もある。各ユニットへの行き来は自由である。 | 事業所では、「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、指針に則り対応に当たっている。また、身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催するほか、年に2回職員に対する関連研修(人権・虐待防止・身体拘束)を実施しており、職員間では何が身体拘束に当たるのか等を真剣に考える機会としている。なお、現在拘束に該当する事例はない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々のケアの中でどのような事が虐待にあたるのか、職員内で共有し、話し合っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人制度については家族様対応にて行われている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に時間を取り入居者様や家族様の不安を取り除く様に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に要望や助言を頂いている。家族様と積極的にコミュニケーションを取る事を心掛けている。あまり面会に来られない方には、お電話やお手紙等で普段の様子をお伝えしている。 | 現在は、コロナ禍で面会を制限しており、家族等の意見や要望は、主として事業所から電話連絡の際、傾聴に努めている。一時実施した、iPadによるオンライン面会は、現在中断しており将来リニューアルの可能性もある。利用者の家族等に写真を添えた「たより」の定期便郵送で家族等との交流を増やし、意見等が出やすい環境整備など検討されてはと考える。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 話しやすい、環境作り。連絡ノートを活用し、意見や提案を確認し改善する様取り組んでいる。 | 管理者は、連絡ノートの活用、日常の介護現場や全体ミーティングで職員の意見や提案の吸い上げに努めている。直ぐに解決可能な案件は、則実行に移し、法人との相談が必要な案件は、稟議を上げたり、毎月のエリア会議での検討となる。事業所内におけるコミュニケーションについては、職員とのヒアリングにおいて、良好で問題ないとの感触を得た。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 就業規則を職員が目にする場所に置いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部、内部での研修をお知らせし、積極的に参加できる様声掛けをしている。又、新入社員については、日報を記入してもらい、不安に思う事等を確認している。又社内でのOJTを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 社内での会議にて情報共有を行っている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者様と接し入居者様から要望等が聞かれない場合は家族様から話を聞く様にして、入居者様の気持ちを受け止めていくように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居者様と家族様の思いの違いやこれまでの関係を理解し、受け止められるよう入居者様だけではなく家族とも信頼関係を築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 要求事項に応えられる能力をホームが有しているのかの確認を行い、他サービス利用も含めて検討し対応に努める。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事全般などできる事は職員と共に生活を送って頂けるようにしている。その人に合わせたケアを行っている。ご本人ができる事を探し、感謝の意を忘れない様に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 疑問や要望があれば気兼ねなくおっしゃって頂ける関係作りに努め、家族様にもできる範囲での協力をお願いしている。家族様より協力の申し出もある。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居されたことで今までの関係が途切れる事のないよう出来る限りの支援を行っている。 | 入居期間が長くなると、家族等以外の人間関係や身体の衰えで馴染みの場所との関係が薄れていくのが現実であるが、入居が間もない利用者にとっては、友人や知人の連絡や訪問がある。(現在は、面会は短時間に制限。) イベント等で両ユニットが合流することがあるので、新たな馴染みの関係ができることもあり、職員は支援に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 仲良く暮らせる様、日々の生活のなかで協働しあえる様支援する。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 相談があれば、出来る限り支援を行っていく。又、退去後も関係が途切れない様積極的にコミュニケーションをはかる様努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常時希望や意向を聞けるようにしている。ご本人様が何を望まれているか分からない時は家族様にも話を聞いている。今後の事についても何人かの方と話をしている。 | 入居前は、管理者等が自宅を訪問するなど本人や家族等からそれぞれの思い、暮らし方や意向を聞き取っている。入居後は、担当職員が寄り添う事で利用者のより深い思いや意向を汲み取り、記録することで職員間で共有を図っている。利用者の意向が分かりにくい場合には、家族等の話を聞いたり、工夫により利用者本位の支援に繋がるよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者との会話やご家族からの聞き取り等で得た情報を活かし対応している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の有する能力を把握し、日々の申し送りの中で職員間で情報を共有するよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ユニット合同で申し送りを行い 利用者の変化に対しての情報の共有を図っている。定期的にカンファレンスを行い、利用者だけでなく家族の思いも反映できるよう取り組んでいる。 | 入居後は、担当職員のほかユニット職員が寄り添って利用者を見守り、情報を共有している。カンファレンスでは、これまでのモニタリング、本人や家族等の意見やアイデア、医師や看護師の診察・看護記録等を反映させ、計画作成担当者が中心になってサービス計画書を作成している。作成後は、3ヶ月毎に計画書の見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | サービス提供記録を残し状況を把握している。日々の記録を元に情報の共有化を図り介護計画の見直しに活かしている。モニタリングを全スタッフが記入している。通院の際などに役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ニーズについては出来る範囲で対応しているが問題点も多い。臨機応変に対応できるように努力している。地域包括の方にも協力していただいている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍ということもあり、ボランティアの方を呼ぶことができなかった。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人様や家族様のニーズに合わせ、内科や精神科の訪問診療を受けられている。又、訪問歯科、訪問リハビリもある。かかりつけ医と密に連絡を取り合っている。 | 入居時の話し合いで殆どが協力医(内科)の月2回の訪問診療を受けている。2名が精神科の訪問診療を受け、他科受診(眼科・整形外科・皮膚科)は原則家族が同行する。診療結果は記録し双方で共有する。歯科は週1回、訪問マッサージ・リハビリを受ける人もいる。協力医とは24時間連携体制がとれている。訪問看護師(週1回)は健康管理を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の訪問看護を受けられている。又、協力病院に24時間相談できる関係が築かれている。訪問診療とは違う日でも往診して頂ける。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入居者様が入院した際、定期的に病院に連絡し入居者様との関わりが切れないようにしている。病院関係者や家族様との情報を共有する事で退院時の受け入れがスムーズに行くように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化対応及び看取りケアに関する指針を明確にし、その上で事業所として出来ることを説明し、支援している。 | 昨年は1名の看取りを行った。入居時に家族・本人に「重度化・終末期対応の指針」に沿って説明を行い、同意(署名・捺印)を得ている。状態悪化時にはその都度医師が家族に説明し、意思を再確認すると共に看護師・職員等と会議を持ち、チームとして最善の対応を話し合う。看取り研修は、職員が講師となって定期的に行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時、対応についてはすぐに対応できる様、目のつく所にマニュアルを掲示し、指導している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災訓練を年2回施行している。夜間を想定した訓練も行っている。 | 夜間想定を含めた年2回の火災訓練は、現在コロナ禍のため消防署の立ち会いはないが、事業所独自で行った。水害対策として、避難経路を確認するミニ訓練も実施した。区のハザードマップや防災マップを職員の休憩室に掲示し、日頃から防災意識を高めている。運営推進会議にて、非常時における町会長や地域住民の協力を引き続き依頼するとしている。 | 一級河川に接し、かつ事業所が平屋であることなどの現状を踏まえ、特に水害への対策が急務と思われる。今回始めたミニ訓練を繰り返し、具体的な避難場所、安全な避難経路や避難方法の再確認と実施を継続するよう期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様を敬い、日々の声掛けの仕方等、スタッフ間で話し合い声掛けを行っている。 | 職員は、利用者の立場に立ち威圧的な態度や声かけに日頃から留意し、職員の言動に問題がある場合には、お互いにその場で注意することになっている。接遇研修は中断しているが、次年度では年間研修計画に組み入れ再開する予定である。個人情報の書類は鍵のかかる書庫に保管し、夜間は事務室の施錠を徹底するなど適切に管理されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様が答えやすい様な問いかけをしたり、筆談にてコミュニケーションをはかるなど行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その人のペースにあわせ、タイムスケジュールを作らず、起床、入床を自由に行って頂き、それに合わせ食事を提供する等無理強いせず、支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣時、その方が選ぶ物に更衣していただき、顔そりや髭剃り爪切り等声掛けや介助を行っている。2か月おきに訪問美容にきて来て頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎月何かしらのイベントを企画メニュー決めや買物を職員と共に行っている。季節ごとの行事を大切に季節感のある料理を提供している。誕生日には職員の手作りケーキを提供している。 | 朝食は事業所で用意、昼・夕食は給食業者から配達され、ご飯はキッチンで炊いている。コロナ禍の現在、外食は控えているが、中庭テラスでのお茶会・バーベキューやおやつ作りのほか利用者の好みを取り入れた行事食など毎月の食イベントに工夫がある。誕生日には、男性職員が自慢の手作りケーキを提供するなど、利用者や家族等から特に喜ばれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分チェック表を確認している。食が細い方には適宜補食を提供している。個人ごとに体重測定を週1回月1回で行っている。夕方の申し送りで一日の水分量を把握している。水分拒否がある方には、ゼリー等代替を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時毎食後口腔ケアを行っている。定期的に歯科往診を受けられている方もいる。又、口腔衛生に関する内部研修も始めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にてパターンを把握し、その方にあつた誘導を行っている。 | 日中は、布パンツ(4名)・おむつ(2名)で他の人はリハビリパンツとパットを併用している。排泄パターンから事前にトイレへ誘導し、排泄の自立支援に努めている。夜間には、オムツ使用者が4名、ポータブルトイレを3名が利用している。2時間ごとに夜間巡回し、睡眠剤を飲んでいる利用者も含め、安全と安眠を重視しながら個別の排泄支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給の促し(牛乳やヨーグルト)、体操の声掛けをしている。下剤も用いる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている | 入浴の時間を定めず、無理強いしない様声掛けしている。入浴剤等使用し、楽しみながら入浴できる様支援している。冬場はヒートショックに気をかけて行っている。 | 浴槽は、2方向介助が可能となっている。利用者ごとに湯を交換し、好みの湯温や入浴剤使用など入浴を楽しむ配慮をしている。寛いだ中で、職員と1対1で昔話など会話が弾む楽しい入浴タイムとなっている。介護度が高い利用者は、シャワー浴や足浴を利用している。入浴を嫌がる利用者にも、無理強いせず清潔保持を第一に柔軟な入浴支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯時間等は特に決めておらず、生活習慣や状況に応じ気持ち良く睡眠できるように支援している。夜間スタッフや他利用者との団らんを楽しみにされている方もいる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の入居者様にあった服薬介助を実施し、状態の変化に留意している。チェック表を利用し服薬ミスがない様に複数のスタッフで確認しながら配薬している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 百人一首、唱歌等、皆様で楽しむ物もあれば、ドリルや塗り絵等それぞれが自由に楽しめる様支援している。お手伝い等、役割を分担して協働できる様声掛けをしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近くの公園への散歩を楽しまれている。テラスにてお茶会を実施し少しでも外の空気に触れられるようにしている。 | コロナ対策で家族との面会は玄関先で短時間に限定している。買い物や遠出の外出は自粛中であるが、三密に留意しながらも近くの公園や事業所の周囲を徒歩するなど、日常の外出支援はしっかり実現できている。昨年は、中庭の桜の若木の下でお花見を楽しんだ。気候が良くなれば、中庭テラスを活用し、お茶会を再開する予定である。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭は事業所で管理しているが、いつでも使えるように話をしている。ご利用者様の希望にそって、スーパーで買い物や行事に参加される際、自由に使って頂ける様支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時にかけられるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地の良い空間が作れるように 季節ごとに模様替えを利用者と共に行っている。季節を感じて頂ける様生花を飾っている。人形やマスコットを置くことによって、癒しの空間作りを行っている。 | 玄関から居間への廊下には大きなひな人形が飾られ、行事のスナップ写真等もラミネートされ掲示されている。ユニット間は自由に往来が可能な構造で、閉塞感を感じられない。各リビングは窓が大きく広めの中庭に面しており開放的で明るい。壁面には習字や雛人形などの作品が飾られ、落ち着いた雰囲気の中でソファでうたた寝をする利用者もみられる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ユニット間の施錠をしていないので思い思いの場所で過ごして頂いている。障害に応じソファなどを工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 今までの生活を継続して頂ける 様なるべくご自宅で使っていた 家具を持ち込んで頂いている。 | 居室はベッド 防災カーテン クローゼットが予め設置されている。小筆筒・椅子・衣装ケース・テレビ・ラジオなど、利用者が思いおもいに使い慣れた馴染みの家具等を持ち込んでいる。清掃は、職員が行うが掃除機かけなど一緒に行う利用者もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご本人のペースを大事にして過ごせる様支援している。 | | |